

# 「谷口けい 最後の遠征 東ネパール パンドラ峰の記録についての追記」

恩田真砂美（公益社団法人日本山岳会  
同人クライミングファイト）

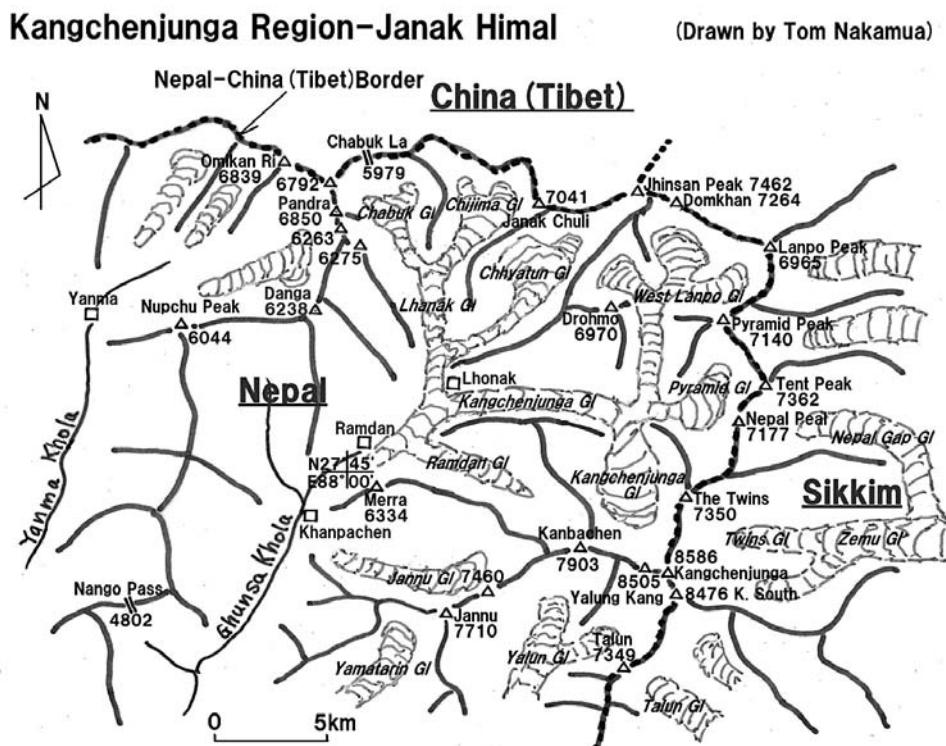
2015年12月に大雪山黒岳にて遭難した谷口けい氏が最後に残した手記が前号の登山研修（「登山研修 VOL.31 2016」）に掲載されている。「海外遠征に求めるもの 東ネパール・カンченジュンガエリア未踏峰への50日間」と題し、その1月前の2015年10月～11月にかけて和田淳二氏とともに向かった東ネパール・パンドラ峰（6850m）の遠征報告を軸に、何を目指し山へ向かうのかという登山における普遍的なテーマについて綴られたものであり、アルパインクライマーとして先端を走ってきた谷口の思いを垣間みることのできる記事となった。

掲載当時、谷口けい氏ならびに編集委員会はパンドラ峰を未踏峰であると認識していた。しかしその後、The Asian Alpine E-News の編集長である中村保氏が登攀記録としてこの遠征を調査する中で、パンドラ峰が2002年にデンマーク隊により登頂されていたという事実を得て、その詳細がパートナーである和田淳二氏の登攀記録とともに「Asian Alpine E-News 2nd Issue」ならびに「ヒマラヤNo.479」にて報告された。

パンドラ峰はネパール政府が2001年に新たに解禁した103のピークのうちのひとつでもあった。この事実を今後の礎とすべく、編集委員会として、中村保氏の協力のもとヒマラヤNo.479号より一部抜粋し、その登攀記録における事実関係について掲載したい。

## 【中村氏の概説】

ネパール東端、国境を中国（チベット）・シッキムと接するカンченジュンガ地域、ジャナク・ヒマール近辺の訪れることが多いパンドラ6850mは、2001年の12月に新たに開放された103のピーク（New Open Mountain Peaks in Nepal）のうちの一つである。

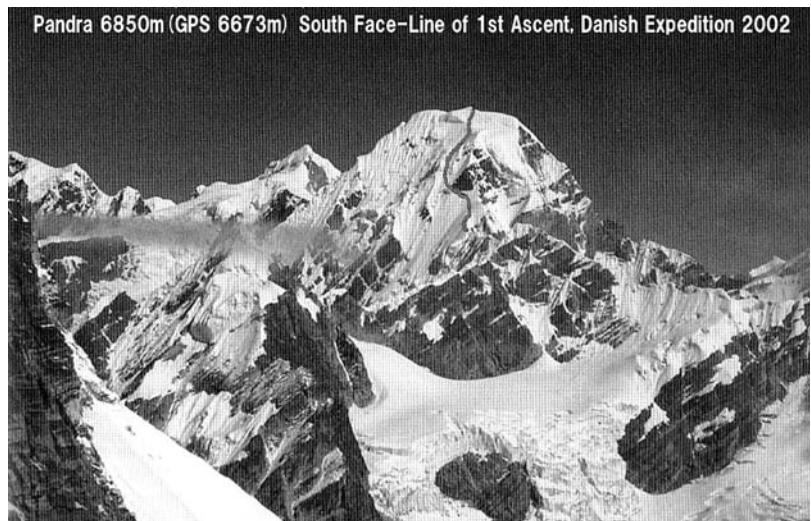


#### 4. その他

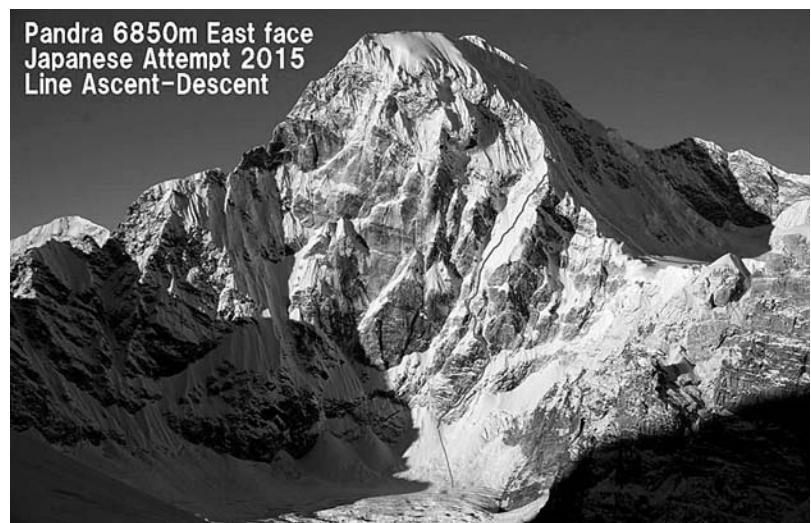
パンドラは今まで2回しか登山が試みられていない。2002年のデンマーク隊（初登頂）と2015年の谷口・和田の日本隊である。この事実は*The Himalaya by the Numbers - A Statistical Analysis of Mountaineering in the Nepal Himalaya (2011)* のエリザベス・ホーレイ (Elizabeth Hawley) との共著者であるリチャード・ソーリスベリ (Richard Salisbury) によって確認されている。

2002年にデンマーク隊はパンドラ6850m (GPS 6673m: N 27° 51.897', E 87° 59.547') を南面から、ダンガ (Danga, GPS 6238m: N 27° 49.023', E 87° 58.589') を南面氷河から、二つの初登頂をしている。ティンジュン (Tinjung) に挑んだが不成功に終わった。アメリカン・アルパイン・ジャーナルAAJ 2003は詳しく記録している。デンマーク隊のメンバーはHenrik Jessen Hansen (leader), Allan Christensen, Bo Belvedere Christensen, Jan Mathorne。

谷口ペアーはパンドラの東壁を登攀の対象としてチャレンジしたが、登頂できなかった。この遠征が彼女の最後の登山となった。広く報道されたように、谷口は2015年12月に北海道の山で遭難死した。



2002年 デンマーク隊 南壁初登ルート (AAJ 2003)



2015年 日本隊 東壁登攀ルート (AAE News Issue 2)



4日目 リード中の谷口けい  
(中村 保氏 提供)

(註記) 2013年に青山学院大のチームがジャナク・  
チユリ東峰6978mを初登頂している。(『ヒマラヤ』  
NO.477

以上が、中村保氏による概説である。なお、2002  
年のデンマーク隊による初登頂の記録、ならびに、  
2015年和田淳二氏による登攀記録の詳細は以下の記  
事を参考にされたい。

**参考資料：**

ヒマラヤNo.477号 「谷口けい最後の登山2015東ネパ一  
ル・パンドラに挑む」  
Asian Alpine E-News Issue 2 「Kei Taniguchi's  
last journey to Eastern Nepal」  
Web Site <http://asian-alpine-e-news.com/>